

無痛分娩 説明同意書

患者番号：

様

説明者：

印

同席者：

印

説明日：

無痛分娩の役割とは

無痛分娩は、陣痛やお産の痛みを麻酔で和らげることで、あなたらしくお産をするための、分娩方法の一つです。完全な無痛状態になると、陣痛の感覚もなくなってしまいます。痛みは、身体の様々な危険な状態を伝える重要なサインでもあります。当院では妊婦さん自身が耐えられる程度の痛みの中で、疲労や不安を和らげ、「いきむ」ための痛みを残し、最終的にご自分で産んだという実感を得られるようなお産を目指しています。

無痛分娩の実施を希望される際には必ず無痛分娩教室にご参加ください。

無痛分娩の方法

- ① 背中から注射する局所麻酔の一つである「硬膜外麻酔法」を行っています。
- ② 硬膜外麻酔は側臥位または座位にて処置を行います。
- ③ 脊髄を覆っている硬膜の外側に、直径1mm程の細い管を留置し、局所麻酔薬と麻薬系鎮痛薬を注入する方法です。

麻酔薬注入を開始する時期

- ① 可能な限りご本人の希望を尊重して開始のタイミングを決めています。
- ② 陣痛の痛みが徐々に強くなった時点で開始することが多いです。

分娩中の過ごし方の違い

- ① 麻酔の開始時点から原則的に食事制限と飲水制限となります。
- ② 麻酔の程度により歩行制限、導尿を行う場合があります。

無痛分娩のメリット

- ① 産道の緊張も和らぎ、リラックスしてお産が迎られます。
- ② 他の鎮痛法より効果が確実で、胎児への影響がありません。
- ③ 体力の温存ができ、分娩後の回復が早くなります。
- ④ 分娩中の血圧の上昇が抑えられます。
- ⑤ 出産直後の創部の処置が痛みなく受けられます。

無痛分娩で起こりうるデメリット

- ① かゆみ、体温上昇、低血圧、頭痛(1-2%)、悪心嘔吐(1-2%)、下肢のしびれなどの神経障害(0.1%)
- ② 処置時に硬膜に穴が開いて硬膜穿刺後頭痛を生じる場合があります。
- ③ 吸引・鉗子分娩になる可能性が高まると言われています。
帝王切開率の上昇はありませんが、分娩第2期が延長しやすくなります。
- ④ 非常に稀ですが、硬膜外カテーテルの血管内迷入による痙攣・局所麻酔薬中毒も膜下腔流入による呼吸抑制(高位脊麻)が起こる場合があります。
- ⑤ 使用した薬剤によるアレルギーを生じる場合があります。

計画分娩 ※例外的に緊急で無痛分娩を行う場合があります。

- ① 当院では安全なお産をしていただくために、無痛分娩は計画分娩で行うことを原則としています。計画分娩とは、予め分娩日を決めて分娩誘発を行うことです。
- ② 内診所見(子宮口の開き具合など)からお産の準備状態が整う時期を予測し、ご本人やご家族の希望もあわせて、分娩日を決定します。

費用について

- ・無痛分娩の費用は、出産費用等に追加して10万円、2日目以降は、麻酔管理料1日につき、2万円が追加となります。
- ・硬膜外カテーテル入れ換えが必要な場合は、追加の費用をいただきます。
- ・無痛分娩教室に参加されていない方が、陣痛開始後に無痛をご希望された場合は、緊急対応として追加の費用をいただきます。

■一旦同意した場合でも、いつでも同意を撤回することができます。治療を拒否したり同意を撤回した場合、そのことにより不利益な取り扱いを受けることはありません。

【無痛分娩の同意】

神戸百年記念病院 病院長殿

年 月 日

私は、この度、無痛分娩の内容と予測される偶発症について説明を受け、十分に理解しましたので、無痛分娩に関して同意いたします。また無痛分娩中に必要となった処置に関しても併せて同意いたします。

患者様署名 :

同意書記載 :

家族署名

(続柄 :)

注) ご本人が未成年であるか、ご署名が困難な場合は、ご家族の方が「同意書記載家族署名」欄にご署名ください。